

団体名	公益財団法人 静岡県国際交流協会	助成金名：多文化共生のまちづくり促進事業	ジャンル
事業名	外国人患者のための映像マニュアル作成・外国人女性のための生活セミナーの開催		医療・福祉

事業名	外国人患者のための映像マニュアル作成・外国人女性のための生活セミナーの開催
-----	---------------------------------------

特徴	外国人と医療従事者の意見交換会を実施し、実用性の高い外国人患者のための映像マニュアルを作成した。また、「育児」「介護」をテーマとしたセミナーを実施し、外国人女性が抱える不安の軽減や仕組みの理解につなげた。
----	--

## 事業のポイント

- ◇ 日本人には暗黙のルールとされていることも、外国人には十分周知されていないことがあり、流れを理解する必要がある病院生活の情報提供は、紙媒体よりも映像資料が有益であると考え、動画を作成した。
- ◇ 「育児」セミナーは、外国人が好むズンバ等を取り入れ、保護者が楽しみながら気づきを得る機会となるよう工夫した。
- ◇ 「介護」セミナーは、外国人が日本の仕組みや制度を理解しただけでなく、日本の介護施設を肯定的に捉えることにつながった。

## 事業の背景・目的

- ◇ 外国人の出産の増加や入院中の規則を守らない等のトラブルを理由とし、病院からの相談件数が増加している。
- ◇ ブラジル人託児所スタッフとの意見交換より、労働条件が厳しく、経済的にも困窮している外国人家庭で、栄養不足、愛情不足の中で育てている子どもが多数存在している。
- ◇ 「育児」「介護」とも外国人女性が抱えがちな悩みであり、地域社会との接点が少ないことから孤立してしまうケースが増えている。
- ◇ 悩みを抱える外国人女性が、思いを打ち明けることのできる場を設けるとともに、専門家より必要かつ正確な情報を入手する機会が必要である。

## 事業の概要

### 1. 外国人患者のための映像マニュアル作成

外国人患者の受入拠点病院として、多くの外国人患者へ対応している 2 病院と連携し、6 言語の映像資料を作成した。静岡済生会総合病院（静岡市）では「入院生活」、磐田市立総合病院（磐田市）では「出産」をテーマとし、外国人当事者の声をふまえた上で作成に着手した。完成物は当協会ウェブサイト上で公開するだけでなく、医療従事者を対象とした研修会で活用したり、県内病院へ配布する等して、外国人患者への対応改善の一助とした。

作成言語／ポルトガル語、スペイン語、中国語、フィリピン語、英語、やさしい日本語

作成枚数／200 枚

URL／ <http://www.sir.or.jp/news/eizo>

### 2. 外国人女性のための生活（育児・介護）セミナーの開催

<育児セミナー>外国人が抱える育児の問題を地域の課題として捉え、様々な団体と連携しながら育児に関する情報提供をしたり、親子のふれあい活動を体験したりするプログラムを実施した。

実施時期：平成 29 年 6 月～11 月

開催地域：菊川市（4 回）、清水町・三島市・沼津市（各 1 回）

参加者総数：菊川市 55 名、清水町・三島市・沼津市 45 名

<介護セミナー>外国人女性が自身の配偶者や義理の両親等の介護者となるケースが増えている。日本の介護制度や仕組みについて知識がない人も多く、さらに母国と日本の「介護観」の違いから悩みを抱える人も多い。第 1 回は介護経験のある外国人からの話を聞いたり、介護保険課職員より日本の介護制度や仕組み、相談先等について解説を受けた。第 2 回は介護施設を訪問し、日本の介護施設について理解を深める機会とした。

開催日：平成 29 年 11 月 26 日（日）、平成 30 年 1 月 21 日（日）

開催地域：静岡市 参加者総数：22 名



入院生活 映像マニュアル



育児セミナー

## 事業実施における工夫点・事業の成果等

### 外国人患者のための映像マニュアル作成

◇ 映像作成に着手する前に、医療従事者と入院や出産経験のある外国人の意見交換の場を設けた。医療従事者は、外国人患者の不安や戸惑いを再認識し、外国人は日本の医療制度やルールへの理解を深めることにつながった。

◇ 完成した映像資料は当協会ホームページに掲載し、県内の病院に配布した。多数の病院から問い合わせがあり、映像資料の活用だけでなく、病院によっては医療通訳の配置について検討が始まるなど、外国人患者受入体制における意識化につながった。

### 外国人女性のための生活（育児・介護）セミナー

◇ 「育児セミナー」は、事前にブラジル人託児所のスタッフとの意見交換を行い、どのようなプログラムであれば外国人の母親が参加しやすいか、外国人当事者の意見をふまえて企画した。しかしながら、セミナー当日は参加者確保に苦勞し、関心に向けてもらうことの難しさも感じた。多言語でのチラシ作成や SNS での情報発信も行ったが、結局はキーパーソンを中心に地道に個々への働きかけを行うことの重要性を再認識した。

◇ 「介護セミナー」は、座学だけでなく、介護施設を訪問したことで、より一層日本の介護制度や支援体制等を理解することにつながった。「介護」という世界共通の問題について、母国と日本の「介護観」の違いから不安を抱えている外国人が多い事が分かり、気持ちを共有する機会を必要としている外国人が多数いることを再認識した。実際の介護施設を訪問し、現場を見たり、職員から話を聞いたりすることが介護を肯定的に捉えることにつながった。



介護施設の見学

## 今後の課題・将来に向けての展望等

◇ 外国人住民が特に不安を感じる病院受診の場面において、外国人への的確な情報提供の方法や必要な支援内容を、医療従事者と共有しながら進めることが、外国人患者の背景や不安の理解につながっている。今後ますます増えるであろう外国人患者に対応するために、今回のように、外国人からのニーズを拾う機会や、医療従事者（特に医療ソーシャルワーカーなど）と国際交流協会等外国人支援団体とが定期的に情報交換を行い、環境整備に努めていきたい。

◇ 映像資料などは想像以上に手間も費用もかかるため、既存の資料収集や関係機関と連携が重要である。特に専門機関が提供している日本人向けの資料等を集め、多言語への翻訳や、やさしい日本語への書き換えなどを検討することが有効的である。

◇ 外国人も日本の社会や医療制度についての理解が必要であることから、介護や育児など、テーマを絞り外国人に特化した情報提供が必要である。



中日新聞 11月27日掲載

## 事業担当者のふりかえり

外国人への情報提供や取組については、まず当事者の状況や思いを丁寧に聴き取り、そこから事業を組み立てることが欠かせない。さらに、外国人のニーズを踏まえた上で、専門機関が提供すべき情報や支援内容を整理し、外国人自身の理解につながるよう、事業化することが重要である。また、既存の日本人向けに提供されている支援内容や体制を外国人も活用できるよう、コーディネートする仕組みが重要だと考える。